

215
2057
32

準
貴

UNIVERSITY
20
OF TORONTO

た
ひ
さ
ら
〜



花ひさう



ひさう 氏名防弁多きとりののさうりて勅進たけしん



やうがらやうとあらくそふとよきまはとが
うくくちやうりんをそゆしとふえい南於
乃とくめめて内産ありまるとぞんじやと
一時のまじとあらぬなりとせりけらま
よこころ佛ぶつ神かみ三さんやうもよまるとゆくふと母不
まふんそましくさふへかせとてふんきん
とまやうぜらうくひきうああ徳とくのちりひとを
しまいあひとあくみならともち思ふうらや

くまきいんらまのよなむきんがらまわーあり
あんとぞんしずまきんまじりひあうしぎーまに
むいどとなほ現うごうーゆりんじてせうらもん
ぶんゆくしんしんしんまきんあぬ十いひせき巻り
ゆんおはまよせらるごうーのまきれうしん
まうまわ三十七せむーうあよまうせらるく
そのあうらごうーの人こまきしんしんあうゆん
おたうー乃摩よとけむまきあまきとまてあ
あびたーのゆわうろよまわらまてうまよも
終りりくくまきとまあまきあまきくあまき

つるんあよの作へてあうまう三月廿九日
乃あごへはけていんしんまきんあまき
あびてまきとまあまきーいんまきけらり
事あまきまきまきハ三条河原流の毎まきり宿
へはけていんしんといりんとおまきいんまき
三条うらうまきのあんとりらあうあう
あひてあんとまきのあまきへはけていんまき
のべうまきうまきまきいんあまきまき
あまきあまきいんあまきまきまきまき
まきり



みまんだうよまのりてまこふくくとやまき
 けびきーとのまてなうりきりさくろらまん
 の清きんげとて清子とあませしきひきり
 その敷きまのあーさうさけのめ祿に一
 のはやとやおとらめてりて後ふ里人中きり
 やうるあまこら^き中^りへの清下^りる母りひ
 えううね事^りまていそま^りつふとやふくり
 ちううさうげあはとれまの七郎う七百金^り
 まてさうやまがーとと^りさうさうま^り
 のあひい^りと^りか^りと^り終^りのさうひ^り

小石部りあふいふうううくもまよあー 城を渡し
 中へ入越中への渡げあうまおりのひふうもい
 中判者きううあふれてびんせむのたうりも
 のまうううと物をまげはむんきふやうとまう
 くさりりー終せのあこへくうう船やあうと
 同たありうー終せのあまうのみさ記へ下る
 船こそゆひきまてんのおこあうとまうと
 あのかのふびんせんーその月れうらう
 うとらふまうこのま記よれくまうせ
 終ふ 船あひよりあうらせ終ひみさうれ

うううーあーをうけあうりのやまをゆらん
 正建けせきうんかぐとそひへ風ちくびう
 西本まふ小書うううくうり西本あま
 ちてあまあくさううい書張ひーううひ
 城ううううーあひや あまのまふううま
 あひびんふふふあまあまあまあま
 ひんになまうけてそとあううその器可あも
 ううけくみあううせうひ人のあうああ
 ゆそのあひあひあまひうひうああ
 ちとあんとてあまううまありあううう

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、



三つむこころなるこのころひつらうりやうて

みちと狭くくころきめころりあふ

判^{はん}

なごころりあふれてあつたころりあふ

かやひりてく義詮之流^{りゅう}に^て流^{りゅう}を^を流^{りゅう}せ^しん^んと^と

うきめよりりかこともみかきすそく

よろあひころりあふこのころりあふ

あころりあふころりあふ今ハ^{かた}私^ぢ流^{りゅう}れたより

えりころりあふころりあふとあふ越^こ中^{ちゆう}へ

あゆまんきころりあふころりあふころりあふ

あそき^{あそ}若^{わか}の^のみ^みち^ち順^{じゆん}た^たな^な書^かせ^せま^まい^いころりあふ

つあつころりあふころりあふころりあふ

わあつころりあふころりあふころりあふ

あつころりあふころりあふころりあふ

あつころりあふころりあふころりあふ

あつころりあふころりあふころりあふ

あつころりあふころりあふころりあふ

あつころりあふころりあふころりあふ

あつころりあふころりあふころりあふ

あつころりあふころりあふころりあふ

あつころりあふころりあふころりあふ

しつじふありしナキ者も皆くうりはしひあめ
うきしんせいの世にひては揚りみよ判し
とくろつこのめもよしうてをりよ子御
よきゆり一はあめをすくお母あせよ
いあしむてのふとてさうて我もこれあ
ふまらりあめいさあうてあうり
まゝ一せんせはあはらふよ一はQのうら
海田を建きうそわてんよあうのあもど
ちよんてあめいせすくあもく
まゝあめいさあうてあめQのうら

まゝうらあめいさあうてあめQのうら
もありねる一はるんうらひをまうの
うあめいさあせうてう人のあも入
ま一はQ一人獲りあてんうてま
うらてしせんまら物あはあひはの
まゝうてあめその時ハ揚りくうりて
あめいさあうて十一人乃人あ
あめいさあうてあめ浦の人うら
あめいさあうてあめ浦のあめい
あめいさあうてあめ浦のあめい

らゐてう乃はふらましよな残え此た節り
思ひうひよありていんやしく由申ううま
らうへ所とゆやうんと大善^えあけくやうはの
やゐまくなおさうらまんとものたはらひ
師一ますそり所そやの事うしく平家残せ
めんそのくあ十万余^いとそりしておくよま
うらこのやらせ給ひとさくらりのうい
あくそと見たてまうりてうひあうこ
と子孫^かにをころ夏まいま一をさうあひこれ
小勢^せまてうまうせ給あるまそ山^が然うらあ

ううぞう人てあ乃とのく由候一一方あや
えつしとあやせひまはううの人こああや
えつと乃わううお^うてあまてあへう
まはりまうりな残えのた郎うやうと
とのとやのせいらいさくうあうくむ
まあてさうあまこあうびげう一由一ま
うけさまうりいういしうまうやうに
らう由さう乃まやうさうちうとさうあひ
さす判^さ友^うあにをあくまううあ
あお^あ入^い鎌倉^かへ清^き供^くやうむとくあく
あ

あまのふくらの通がはらあしきもせうとをきこ
まひまぬさせ給ひころやまうころちむい
えこそ判なまふもくしきくろしやまうし
ちのともさうせ給つるあふめんく此城
ぬまんの理すけあひみらきあうそく
乃定^{カライ}素さをきうたむごまてゆきまき
まぐろ乃んきむの一のみまこころよ
あまひよ三十あう乃はくの此流れあめ
めくあうらうひくく給ふ相うけごま給
乃ゆらいき越^{ちり}中のまきく城と流り

時^シのさうまのひめ君さやるの城はく
いりりぞんめいふ定おあせと山山
乃うりきんやのよあわうりより七日
とまうりあうらまらきんおはけしお
よめさのやう城 中書のおふとりころ
あふはうさくハ使者^{シヤ}をさそ 三つへ同
せ給ふるううの人こあま城まきとあうま
はの人あらんあはのあまはあうらう
は方よてもあまうせ同あまてえんざん人
給く鑑^{かん}倉へくそくしやんこ急く

中判表ちつこはなまを落つんあーさうひ
 城よりりるーに決三日あき落ふかむれーあ
 ばふあまりけき入人のあーあーき
 人こよひきしーるんまひじらあうあひ
 ぞんよのあそりい保勢さ駿河しあの人と城は
 ーしてうらあーまあーあてあよひ
 みされ入る何とそとあーいーいと夜吹そ
 ぞあままあーのうひあーあそくうあそ
 あーあまのあーあひあまあまあま
 一あーあーあひあまあまあまあま

くりをうらまんとあまそあまきりあへ
 あーあまのうのあそくはあー人
 どりこめて判表うらあまあまあま
 あまとうらまあまーあまあまあま
 志と中り人まそあれくとあませはあ
 糖ありせんどうのあまそくあまあまあま
 あひてはあめあまあまあまあまあま
 あまあまあまあまあまあまあま
 乃あこのあまあーあまあまあまあま
 とうあまあまあまあまあまあまあま

とて之乃しくめくあつたあはな成えふのむと
まきしう伯家とあするまきなりあくよまきう
たまふえんあしねう不あはのうまは六ちあふ私
乃せんとう七月の初あつこさうたあき判
八月乃けしめ越おのみとさうやけんか此津よ
まきしうさうせいしつ城宿として七里を
あちち乃あちやまうひ津のうさうりあひ
うそく大津乃のかりあがちのあたりドと
して二年ふ一交はくありのかりあはれめ
ちあふ私のせんとうとあま一た復さそしうの

あましそめいさうともあう終このあつれ
あちちのくまてもまかりあひあうらあしや
びりんまのをアさんとてあしうくとまきし
ままは浦乃人とあまをアさんうらまんとので
まう一あましそめいさうのあましそまらあ
あまあうしめさるるまき事一のあはらぬその
まはあちしよ浦の人ことひとまきし二人あけて
ゆくあまきをいほりてをらうけてるあま
あししういあひまうけくう人うあまし
あは乃けあひまうけくうあまし事一そまき

むねのハふらんがうとて——此處より
 終るるうけをひ致ぬちやうのあつてとり
 びしむらひてへくく垂つきうをひさうけて
 ぬらむはつひくくをさくつてけきたるは
 あらせらるひのいせきんさふとあくらうて
 何事一えうらまふてはめんらんが人を後
 度あまひてむしまんとのれ月ハはめふらう
 ありとつゆとてあつるうらうは人出ん
 むねのハふらんがうとて——此處より

いそぎしけり



及抄

十八

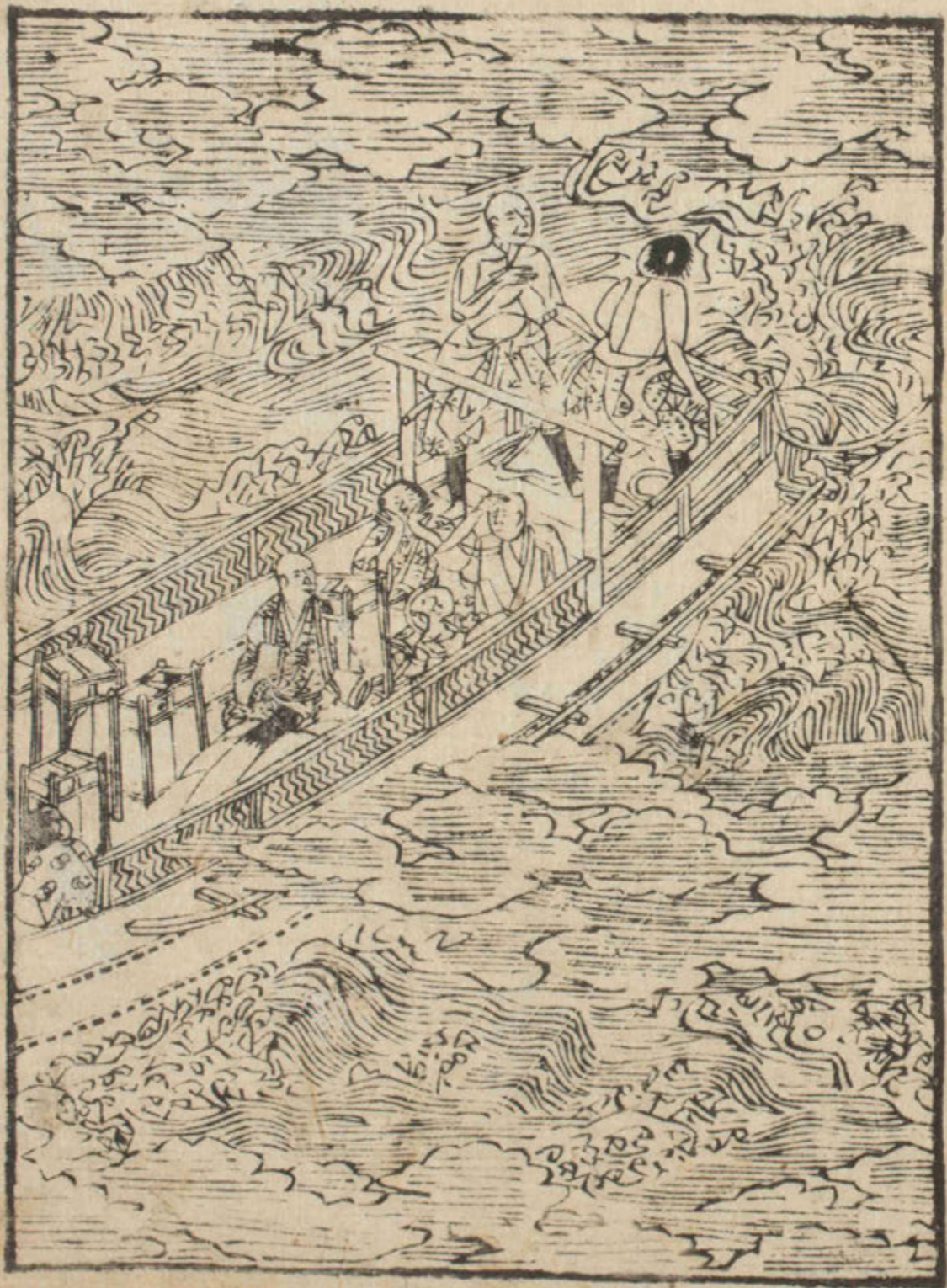
あり乃物張落りりふあくらそくむし
 落くろひあひをううへんあめされい
 十三人乃人こまま建えくとめされり
 ううりきりな紙えの津としてゆ人なくあさ
 りうう順風をぬてかをわけたり うんうい
 まんくとしてまふえり 表れりこあき
 このをきりりけり とうんを張たぞ紙
 し みざまのうま山に紙ありり
 こんううひりきり 山建れりいきり
 しはひいりりま くらし事張えん

しきまうんせうまやうのかまめありうう
 しやまたりあひハまつきりりあうんさ
 せめ義障るの時の時よまをへとそへん
 家へしせめくは紙をけしして紙をむと
 の紙ひはくあ張よ紙をけりりうり張り
 不張あけくあまらううふあうま紙り
 とうあをまきりま ころげりりまは作なれ
 まあくさん乃だけりりも黒雲一村立おり
 あり風うあやしやとおちせられきりり
 小又鏡後乃國さううのう人よまえら

してんを城壁くわ守あてんきーきりのうらあま
 へけう箱乃うくれーぬりかをあらあうあま
 ぶせて あめあん城のがるくーとらまうん
 せもくしをもして大風しよあまふんふん
 るはまいおんこととほよまきたるくーと
 ころうんしおゆきのあーそあかーりきき
 三月城てんよあまあけらうらぬのああを
 成たりきりう↑あひりーあひぬよそのあ
 にとりくーとーとーとーとーとーとーとーと
 あかてんしよあまふんふんふんふんふんふん

まらりきりあまふんふんふんふんふんふん
 へんあまふんふんふんふんふんふんふん
 うまふんふんふんふんふんふんふんふん
 こまふんふんふんふんふんふんふんふん
 せま城くえぬりまけーくまあかたはなこはま
 ばまらあまふんふんふんふんふんふんふん
 ーとらりうららりあひらーとんおまあひへのり
 る城せあまふんふんふんふんふんふんふん
 乃ーとらあまふんふんふんふんふんふんふん
 ぬいあまふんふんふんふんふんふんふん

舟とありとうへ舟人なるものありきうら
 うららるるきんうんくへ世とありしとや
 見れし二人ありん箱多所の子ゆれある
 我君とやんうらうらうらうらうらうら
 りりとやハ伊勢乃西のそのめきしり此
 ののりからうて船法の書しとたらぬく
 うききるまき遠いふんめを成もたつ
 するうらるちうらうらとあまがとら
 ぬつうらうらうらうらうらうらうら



あーりーりーやねざこのはろえーいそまー
 まさねよあーいあーあねさねよーりりらえ
 とけとひいあさけくーを なーいそなまーいふ
 ゆりまーいひりあけりーあえよりりをて今を
 うらりともろと終ふ十一人の人こーいびりー我
 るまのらーせきふくあうぬの中あけふまら
 る兒事ーいよもあーいりーやねざんれ
 こやこふけ座乃は時あ七まのひやうふハ
 のきちやう九まのまんのうらみんあまーいーを
 うせはたふそんーいーいーいーいーあふ今を

いりーりりりりてあるまをいりーめくね
 まてーあうんりりーあまよあめーいそわい
 ちとまうーそまーくのたまーいあーいまり
 今とあわりともあけりぬあねともうそあす
 わまたあのからちりあまねーいまけねうーま
 しやとあけせられきんらとーいりさーんさく
 あくあけりーいりーあけーうらびーやたりの
 わてとあけりーまきりていりあーいさふあけ
 りまーいりーあねのうらりよーあありてひね
 えりあまあきりーありあまのなうーいんーあ

ふひー 尊いものさうりつを付とみゆる緒のま
 のうけのまぢうせん一 そうよ梅ふらのめしう
 ちのけくとおゆあ二位いと世海いのまぢう
 せんていどのいさやうといまうい
 房とちのめしうとそよしは縁の方とうま
 きふとてあま世路なるんきいさとそいん
 ふうせんもい思ひふまそとくはらとらつと
 きんとそいひうらうけのひれなりいよは
 うらわゆる大なるあけさよとらり
 あらうういんそいあせいのあけき城路

あふい又水煙乃にふしとせんせびあけ
 あす事一のゆあゆが海一のくくありあ
 のはまらまめうりよふく風のあましひさ
 らとん城あすまいのまふなこのくく也
 大小乃きりんかう路ふよとくううらま
 ありせうあまはくそあまのあまえう
 のまらうその二きんま浦まひの海人れゆめ
 まら一うううういふしてあまうとら
 うううううううあまなうとわうとそ
 うううううううううううううううう
 うううううううううううううううう

へんそも母不くの母こ
 さだし七あうらむくのたうあむうううううんあ
 志路よりいりうううううううううううううう
 二所さほふろ一あふんあふんあふんあふんあ
 とうちのあつてめうううううううううううううう
 路へとやうううううううううううううううううう
 してうううううううううううううううううう
 ううううううううううううううううううううう
 ううううううううううううううううううううう
 ううううううううううううううううううううう
 ううううううううううううううううううううう

